

2025年大阪・関西万博に向けた取組

令和4年4月

経済産業省 商務・サービスグループ

大阪・関西万博におけるヘルスケアウィークの開催の検討

- 大阪・関西万博において、ヘルスケアウィーク（仮称）の開催を検討中。
- ドバイ万博においては、6か月間の会期中に10の重要課題を取り上げる「テーマウィーク」が設けられ、2022年1月17日～2月2日にはヘルス&ウェルネスウィークを開催。
- 会場外では、中東地域最大の医療機器見本市「Arab Health 2021」を開催。（1月24日～27日）

【会場内のイベント】



HALの写真（サイバーダイン提供）



装着体験会の様子（ジェットロ撮影）

「HAL」は、装着者の皮膚に貼ったセンサーで生体電位信号を検出し、装着者の意思に従った動作を実現。会場内で装着体験会を開催。

【会場外のイベント：Arab Health 2021】



中東各国だけでなくアフリカからも最新の医療機器を求めて多くの医療関係者やバイヤーが訪れた。

JETRO「ビジネス短信」より

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/01/1e12843fd4e5b5fd.html>

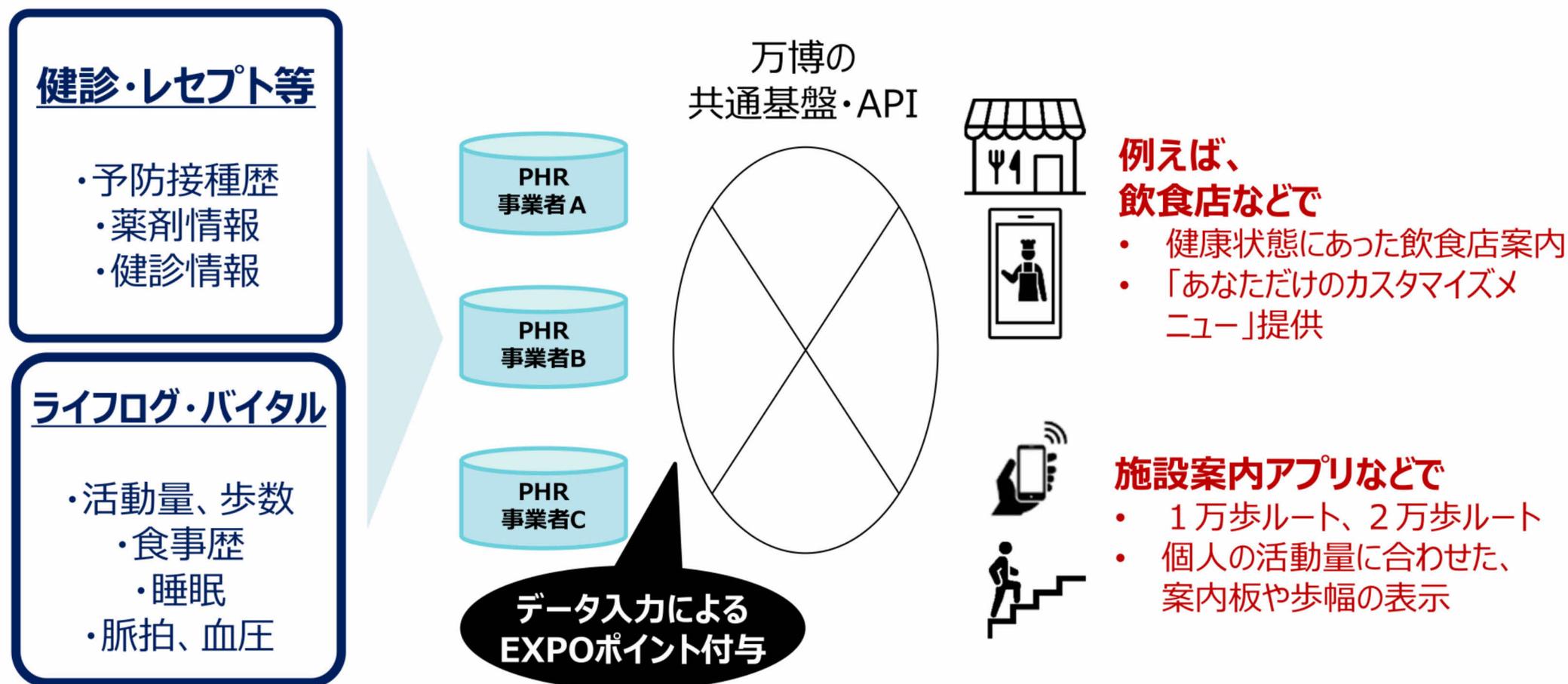
【参考】ドバイ万博におけるテーマウィーク

＜イベントカレンダー＞

2021年			2022年		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
9/30 ドバイ万博開幕式 10/1 日本館開館式		12/11 ジャパンデー	日本館主催：季節行事		
公社主催：テーマWeek (一部日本館も関与)			1/1 お正月 12/31 大晦日	2/3 節分	3/3 ひな祭り
10/17~10/23 Space	10/31~11/6 Urban & Rural Development	12/5~11 Golden Jubilee	1/9~15 Travel & Connectivity	1/27~2/2 Health & Wellness	3/20~26 Water
10/3~10/9 Climate & Biodiversity	11/14~20 Tolerance & Inclusivity	12/12~18 Knowledge & Learning	1/16~22 Global Goals	2/17~2/23 Food, Agriculture, livelihoods	
アンバサダー登壇イベント・ワークショップ等					
					3/30 BIEデー 3/31 旗渡し式、閉幕式

Personal Health Record (PHR) を活用した万博体験 (イメージ)

- 万博開催前 (ex.チケット販売時) から、各事業者が提供するPHRサービスへのデータ入力を推奨。入力者に対しては、「EXPOポイント」と連携したインセンティブを用意。
- 万博の共通基盤・APIにより、万博内施設・サービスと円滑にデータ連携ができるような環境を整備し、PHRを活用することで、個々人の健康状態によりカスタマイズされたサービスを体験可能に。
- レガシーとして、万博での共通基盤・APIは、各自治体における“健康まちづくり”等への活用を検討。



2025関西・大阪万博におけるジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト（JHeC）

- 優れたヘルスケアベンチャーを発掘し、事業を加速するため、2016年より毎年実施。2025年は第11回目となる。（過去の受賞企業では、J-Startupへ6社選定、2社が上場）
- 万博会場では、ヘルスケアウィーク等を活用し、最終審査プレゼンを実施。日本の優れたビジネスシーズを世界に発信し、国際展開の加速を狙う。

開催目的・内容

【開催目的】

ヘルスケア分野の社会課題解決につながる優良なアイデア・事業にスポットライトを当て、知名度向上による事業の加速化を通じ、ヘルスケア産業の発展に貢献する。

【万博における開催内容（案）】

- ヘルスケアベンチャーによるピッチ
- 審査員による質疑・審査
- サポート団体（VCや企業等）による支援表明（札あげ）
（サポート団体例）SOMPOホールディングス、ジャフコグループ、神戸市
- 結果発表

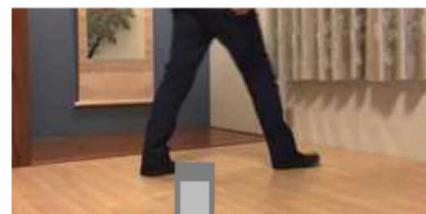
※審査は、書類審査⇒一次プレゼン審査⇒最終プレゼン審査を実施

万博会場ならではの取組（案）

- 海外の来場者を想定した同時通訳対応
- 来場者・視聴者による「いいね」発信
- 過去の受賞者の製品・サービスの体験ブースの設置



サポート団体による札上げ



高齢者の転倒による骨折を防ぐ、転んだときだけ柔らかい置き床「ころやわ」。歩いている時は硬く転びにくく、杖や車椅子も使えるが、転んだ時には凹んで衝撃を半減する。

※大腿骨折だけでも毎年社会保障費が2兆円かかると推計されている。

過去のグランプリ例

最新の福祉用具の体験

- 福祉用具の開発事業で採択した製品の体験コーナー等を設置し、最新の福祉用具に触れ、その魅力を体感してもらう。

取組イメージ

- 自動運転による施設観覧（例1）
- 排泄予測デバイスの体験（例2）

（例1）自動運転による施設観覧

● 具体的な取組内容

- ・自動運転機能を備えた電動車椅子を施設観覧に用いることで検討中



（例2）排泄予測デバイスの体験

● 具体的な取組内容

- ・超音波センサーで、膀胱の尿のたまり具合をとらえ、スマートデバイスなどにトイレのタイミング等を事前にお知らせする、高齢者向け排泄予測デバイスを子ども等にも活用できる。

※装着専用パッドと共に使用

